

成長につなぐ — 事例17 ゴールズ&169ターゲット

223

東京ブレイズ

金属部品の加工に使われる「切削液」。東京ブレイズ（東京都世田谷区、松康太郎社長）は電解水由来の切削液の生産を始めた。日本フルードシステム（兵庫県玉塚市、ト、旧称オイルウォーター）清水信幸代表取締役）から生産を受託し、栃木工場（栃木県さくら市）に製造ラインを導入。「人と環境に優しい切削液」として販路拡大を狙う。



エスイットは切削液としてだけでなくさまざまな用途が期待される

人と環境に優しい切削液 販路拡大

劣化した切削液。従来の切削液は寿命を延長するための防錆剤や、潤滑性を高める鉱物油などを含む。栗原取締役副社長は「エスイットは鉱物油や防錆剤を含まない。人や環境に影響を極力及ぼさない切削液だ」と話す。

工場で働く人の中には女性も多い。エスイットの導入で「動く環境を改善できる」という点でお客様に評価されている（栗原取締役副社長）。

SDGs（国連の持続可能な開発目標）への関心が高まる中、工場の労働環境が重視される。栗原取締役副社長は「悪臭や金属加工時に発生す

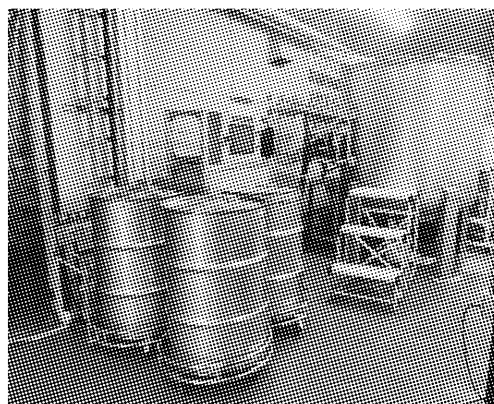
るオイルミストなどが工場内に充満し、働く環境が良くない」と指摘。エスイットを導入することで工具の交換頻度が減るといった効果や、工場での清掃作業の簡略化などコスト削減も期待できる。

栃木工場での1日当たりの生産能力は4tで、月産能力は80t。海外からも引き合いがあり、「水で鉄板などを切断する『ウォータージェット』に活用したいという米国の需要がある」（同）という。

日本フルードシステムは切削液の管理を行う装置の開発も手がける。モニタリング装置「マルチメーター」

では、濃度や水素イオン指数（pH）などの測定を行える。栗原取締役副社長は「濃度などの管理に手間を要していた。同装置はワイヤレス機能を備え、工場のどこからでも遠隔で一括管理できる」とし、持続可能な社会の実現に向けて広く導入

されることを期待する。



栃木工場のエスイット製造ライン